

同和教育を全市民のものに

南同研大会

「差別の現実から深く学ぼう」
——と、同和教育研究大会が十月十四日、市民体育館をメイン会場として、四百五十名の参加で開かれました。

局の岩見富子先生が、同和教育の
実践について講演し、午後は十三
の各分科会に分けれ、積極的な意
見交換が行われました。

今回は、全体会の貴重な講演に
ついて紹介します。

自分自身のもつ課題を

ほりおこしながら

岩見富子先生（県同教事務局）

皆さんは今まで「井松教師」という言葉を、聞いたことがあると思います。

それは、島崎藤村の「破戒」の主人公瀬川丑松のように、被差別部落の出身であることを隠している教師を言っています。この「破戒」が世に出たのが一九〇六年、以来七十七年の歳月が流れた現在でも、まだ「丑松教師」がいるわけですね。これには、それ相当の理由があると思います。

まりに欠けるのは、部落出身教師の取り組みの弱さにも一因がありはしないか。差別の痛みを知っている教師こそ、差別を憎み、子どもたちに人権を尊重する大切さを教えることができるはずだ——こんな声を聞いたことがあります。もちろん、中には本当に必死になつて取り組んでいるかともいます。私は、高知市の小高坂の部落で生まれました。六人兄弟の下から二番目で、母は三歳の時に亡くなり、家が貧しかったことは言うま

身教師であることを、隠すことばかり考えてきました。

こんな弱い私が、どうして目覚めたかと言うと、十年ほど前に解めたかとも会で、私と同じ立場の子どもたちの行動に接しはじめてからです。子どもたちは、教師や友だちの話が聞けない状態でした。その姿を見て、自分と同じように部落差別がこのような状態にさせているのだと、はっきり目が覚めたのです。

また、私が図書館係をしていたと

き、落ちつきがない子どもたちは、学年を通して被差別部落の子どもに多かつたのです。そのとき、つくづく「差別が、こんな子にしている」と思い、自分の小さいときも、この子たちのようだったと考えたものです。両親が、土方や雑役など生活に追われた家庭で育ち、話し合うこともなかった子どもにとって、図書館で本を一ページページめくり感動し、読み進める力などなかったのです。

そのとき、本堂に就学前の教育

るために、お母さんがどういうことをしなければならぬか話してきました。

私たちは、次の三つの約束を暮しの中でも、授業の中でも言っています。それは、①自分にしてもいい、他人にしないようにしよう②自分をしっかりと運転しよう③昨日の自分に勝とう——というものです。この約束を子どもたちに教えながら、また大人もしっかり守ってもらいたいと考えています。

の大切さを知らされたものでした。関西大学の鈴木先生によれば、能力は、“この子にもできるはず”、一定の訓練を受け身につけたものの“二つがあると云っています。部落の子どもは、この訓練が十分でないため、特に言語、文字、忍耐力に大きな差ができています。全ての子どもに、乳幼児教育の場を保障することが大切です。そのために、保母が部落の環境を正しくつかみ、小学校と連係を保ち、一貫した教育方針を持たなければなりません。

私の子どものは、勉強はあまりできないし、ハキハキものも言えない子でした。そこに隠された差別の実態を見ようとしないうちに、教師にとつて、私の存在は、うんざりするものであったに違いありません。その教師の心の動きが、学級全体のものとなり、のけ者にされたように思ふのです。教師は、部落の子どもたちが受けている目に見えない差別を、きちんとつかまないうちに、決定的な指導ができないことを認識しなければいけません。

また私は、このように子どもを変えていくためには、親を変えなければならぬと思い、いろいろな地区の成人学級や保護者会に出席しました。そこで、小学校で部落の子どもたちはどんなようすか話し、感性や創造力を豊かにす

差別の実態を鋭く見抜き、自分の問題として差別の痛みを体で学びとり、その差別をなくすためにこれからも努力してゆきたいと思っています。

《禪師峰寺》

文化財をたずねて ⑬



太平洋も一望できる、32番札所峰寺

十市の峰山にあり、四国八十八所第三十二番札所で、真言宗豊山派に属し、大同年間（八〇六年頃）僧空海が開いたもので、本尊は空海自作の十一面観音像である。定明作の金剛力士像二体は、鎌倉時代を代表する傑作で、重要文化財になっている。両像とも、ヒ

ノキ林の寄木作りで、玉眼、彩色像であるが、彩色はほとんど剥落して（はくらく）している。阿（あ）像は百五十六、呼（う）像は百五十九・五、上体裸身、上半身（むすそ）をまとい、天衣を頭上にひるがえし、眉を逆立て、眼を見開き、物すごい形相をして

いる。

「静かなる 我がみなもの禪
師峰寺 浮かぶ心は 法のはやぶ
ね」

この寺は景勝の地にあり、峯つづきの月見崎は、眺めがよく、文人飛鳥井曾衣が月を賞したところである。

峰寺住職

川口義章さんの話

(((市民の声)))

大篠保育所改築を早急に

市内で最も園児数の多い大録保育所で、八月九月上旬にかけて、今時めずらしい「ノミ騒動」が起きました。百七十人もの園児をあずかる保育所で「ノミが発生した」と聞いた時は、あ然とし、驚いたものです。

この事件は、休園・消毒——大そうじで一応解決したものの、ところが、この時に保護者が天井に上がってみると、電気配線

最近四国は、空海ブームでお遍路さんも多くなっているようです。四国八十八カ所巡礼は、阿波で発心、土佐は修行、伊予で菩提、讃岐が涅槃と言われ、各札所をまわって自ら悟りを開いていくというものです。その場所は、山中で



川口義章さん



川口義章さん

あったり、街中であつたり、みんなの願いが違つように、いろいろ変化がもたれています。

戦争中、空襲警報のサイレンの代わりにと、梵鐘が取り上げられずに済みました。そのため、毎晩ラジオを抱いて寝て、警報が出るたびに、鐘をたたきに起きた思い出もあります。

私は何度か、八十八カ所を巡りましたが、やはり峠寺が太平洋も一望できる一番の景色の良いところだと思っています。

に異常がみられました。早速、四国電気保安協会に調べてもらったところ、「このままでは漏電火災の心配がある。雨の日には特に危ない。」と指摘を受けました。

また、火災報知器も、改築するからということを取り付けられています。このままでは園児の安全も守れない、危険な状態となっています。

今年の六月一日の市議会に對する陳情で、市長は、『太極保育所の改築は、五十八年度予算では優先的に扱うつもりだ。』と答弁しています。しかし、さる九月議会に

おいて市執行部は、どうもはつきりした見解を述べていません。改築問題は、地区民や保護者の方々など十年來の願いです。五十六年度には一歩前進し、地権者のご協力でやっと用地を構えることができ、あとは建築するだけとなっています。

ノミ騒動や漏電火災の心配がある園舎での保育は解消されるよう、早期改築にむけて、関係諸氏のご努力を強く訴えます。

大篠保育所保護者会長

野村 進